

平成26年度 自 己 評 価 表

鳥取県立青谷高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	社会人として通用する人間を育てる	今年度の 重点目標	①生徒指導の充実:「時を守り、場を清め、礼を正す」「大きな声で校歌を歌う」 ②「確かな学力」の定着:基礎学力の定着＋キャリア教育の充実＋自信と誇りの育成 ③地域との連携を推進する
-------------------	------------------	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (9)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 生徒指導の充実:「時を守り、場を清め、礼を正す」「大きな声で校歌を歌う」	(時を守る) ・規則正しい生活習慣が身に付き、毎日を健康に送ることができている。 ・遅刻、欠席がなく、授業の始まる前には準備が整い、意欲を持って学習に臨んでいる。	・ほとんどの生徒が総合学科の特色を理解し、多様な選択科目を履修しながら自律的に行動することができている。 ・深夜までの起床による寝不足や、体調不良による遅刻、欠席を繰り返す生徒も一定数ある。	・学校生活における規律への意識が醸成され、規則正しい生活と意欲的な学習活動が行われている。 ・健康や安全に対する意識が高く、食事や睡眠を大切にした規則正しい生活習慣のもとに学校生活を送ることができている。 ・早起きと栄養バランスの良い食生活が定着し、朝食の取得率が95%以上となる。	・体力増進プロジェクトにより規則正しい生活と健康の大切さを啓発し、家庭との連携も深める。 ・授業の始まり終わりの挨拶を大切にし、より一層けじめのある授業展開を図る。	・遅刻、欠席が全体では少なくなってきたが、特定の生徒による遅刻、欠席が繰り返されている。 ・体力増進プロジェクトの取り組みによって朝食や生活リズムと学習成果との関連分析が行われた。	C	・朝の校門指導を継続し、遅刻防止、服装整備、挨拶などへの意識をさらに高める。 ・全校集会での迅速な集合、整列、マナー向上など、規律ある行動への指導をさらに徹底する。 ・教室内、個人ロッカーの私物に対する管理と整理整頓を徹底する。
	(場を清める) ・毎日の清掃活動を大切にし、気配りのある行動がとれている。 ・学校内が清潔に保たれ、整理・整頓が行き届いている。	・毎日の清掃活動は丁寧に行われているが、指示されたことだけに止まりがちである。 ・ゴミの投げ捨てが目立たなくなってきたが、ゴミの分別や教室内の整理整頓に不十分さがある。	・遅刻、欠席数が昨年度比60%に減少。 ・清掃活動や整理整頓が丁寧に行われ、学習環境における5Sが定着。 ・明るい笑顔で挨拶ができ、正しい言葉遣いと社会で通用するマナーが身に付き、制服も正しく着こなすことができている。	・毎日の清掃活動を大切にし、定まった作業に止まらず、細やかな気配りや気づきが生まれるようにする。 ・環境整備プロジェクトにより学習環境の整備を図り、5Sの定着も進める。	・朝清掃が定着し、生徒全員による清掃活動が励行されている。 ・ペットボトル、紙コップなどの放置が時々あり、教室内や個人ロッカーの整理整頓もまだ不十分。	C	・環境整備が心の安定やマナーの向上、学習意欲の向上に繋がることの啓発を行う。 ・大掃除の作業内容を整理し作業の効率化を図るとともに、日常の清掃で行き届かない部分の環境整備を図る。
	(礼を正す) ・明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができる。 ・丁寧な言葉遣いと制服の正しい着こなしが保たれている。	・校内の花壇に生徒のボランティアによって植栽された花が咲き、心む雰囲気が醸成されている。 ・しっかりと挨拶ができる生徒もいるが、学校全体としての積極的な挨拶は不十分。	・公私のわきまえができ、集団や社会に対する貢献意欲が高く、周囲に対する配慮や思いやり、節度や謙虚さが身に付いている。 ・学校行事や全校集会で規律ある行動がとれ、校歌を大きな声で歌うことができる。	・カード指導を含め毅然とした姿勢で指導するとともに、丁寧で粘り強い指導を継続する。 ・生徒にとって見守られ感と安心感を感じる指導に努める。	・職員による朝の校門指導が定着し、挨拶や身だしなみに対する意識が向上してきた。 ・一部に制服を着崩す生徒がまだあり、言葉遣いも不十分な生徒がある。	C	・生徒ボランティアによる春に向けた校内花壇の植栽を行う。 ・校外での行動に対する責任を自覚させる指導を充実する。
	(大きな声で校歌を歌う) ・式典や学校行事で校歌を大きな声で歌うことができ、潑刺とした雰囲気が全体に満ちている。	・社会人として通用する言葉遣いや正しい身だしなみが不十分。 ・式典に臨む意識は向上しているが、校歌を大きな声で歌うことができていない。	・生徒会活動や委員会活動が活発であり、生徒個々の参加意識や貢献意欲が高い。 ・生活指導に対する保護者の理解が高く、連携した指導体制が整っている。	・式典の意義、式典に臨む態度やマナーを丁寧に指導するとともに、学校に対する帰属意識や誇りを醸成させる。 ・職員と生徒が一体となって行動する。	・式典や全校集会などに臨む態度や意識が向上し、集合、整列の時間が短縮されてきた。 ・吹奏楽部の演奏が定着した。 ・生徒会が率先して行動している。	C	・各式典のつど規律ある集団行動を徹底し、本校生としての誇りや自覚を育成する。 ・吹奏楽部と連携し校歌を大きな声で歌う。
2. 「確かな学力」の定着:基礎学力の定着＋キャリア教育の充実＋自信と誇りの育成	(基礎学力の定着) ・丁寧な学び直しが行われている。 ・学びに対する満足度が高く、真摯な態度で学習に臨んでいる。	・総合学科の特色を理解し自分の興味関心に応じた科目を積極的に選択し、進路目標に向かって意欲的に学習に取り組む生徒が多くなってきた。	・丁寧な学び直しが行われ、学習に対する生徒の満足度が高く、真摯な態度で学習に取り組んでいる。学習力指数が2. 5以上。基礎力診断テストの結果が正規分布に近づく。 ・生徒が総合学科の特色を生かし、多くの可能性やチャンスの中から、将来の社会生活を見据えた進路目標を見定め、意欲的に努力を積み重ねている。授業評価アンケートの結果全項目が3. 0以上。	・学力向上プロジェクトによる丁寧な学び直しを行うとともに、学ぶ意欲を向上させる授業改善を進める。 ・意欲低下や悩みを抱える生徒には家庭との連携を深め、相互理解を図る。	・1年次の学び直しが定着。2年次も基礎学力学習を継続実施。基礎学力診断テストの成績下位層が少しずつ減っている。 ・教育課題職員校内研修を実施。	C	・学び直し、基礎学力学習を各年次で継続する。 ・授業改善プロジェクトによる職員研修を実施し、授業改善をさらに進める。
	(キャリア教育の充実) ・将来の社会生活や職業を見据えた科目選択と進路決定がなされている。 ・進路に係る教科外活動にも積極的に取り組んでいる。	・目標設定に迷い、学力不振や学習意欲を減退させている生徒も一定数いる。 ・進路に対する理解や将来の社会生活に対する理解が不十分な生徒があり、言葉遣いやマナー、服装にも不十分さが表れている。	・様々な価値観や進路目標を持つ生徒が、お互いの目標を認め合い、励まし、切磋琢磨する環境となっている。インターンシップ実施生徒数が前年度比1. 5倍。	・1年次「産業社会と人間」、2年次「総合的な学習の時間」、3年次「課題研究」を中心に、各年次に応じたキャリア教育を充実させ、生徒自らのキャリアデザインの意識を高揚させる。 ・教科指導とキャリア教育の連携。	・1年次で将来の進路と専門性を考える系列選択の意識が向上した。 ・2年次のインターンシップ実施者が数名であるが増えた。 ・3年次の就職希望者の活動意欲が高く、内定率も向上している。	C	・1年次の系列選択に対して、将来を見据えた系列選択と科目選択になるようさらに細やかに指導する。 ・2年次の進路指導において将来の職業と社会生活に対する意識をより具体化させる。
	(自信と誇りの育成) ・挨拶やマナー、正しい言葉づかいと身だしなみが身に付き、地域からの信頼が厚い。 ・部活動が活発で、活動への意欲が高い。	・部活動への加入率が高くなり個々の部の活動に活気が見られるようになっている。大会での結果にも成果が表れるようになっている。	・多くの生徒が部活動に加入し、学習と部活動の両立に努力し、高い満足と自信と誇りを持っている。部活動加入率が95%以上。	・教科指導や体験的活動を通して、様々な場面で生徒が達成感、成就感を得られるよう、指導内容や評価の改善を図る。 ・部活動が自分を成長させる大切な場であることを啓発し、加入を促進する。	・体験的学習や学校行事に意欲的に参加する生徒が多く、集団としてのまとまりと活力が高まってきた。 ・部活動加入率の顕著な伸びはないが、各部の活動が活発になり、対外成績でも成果をあげつつある。	B	・後期生徒会執行部の活動を支援し、生徒の主体的な活動に対する自信と誇りを向上させる。 ・生徒の活動に対する評価や成果を丁寧に示し、生徒の自信と意欲を高める。
3. 地域との連携を推進する	(地域への情報発信) ・学校の特色や生徒の活動などが適宜発信され、保護者、地域の理解度が高い。 ・生徒の校外活動が積極的で、地域からの理解や信頼が厚い。	・PTA広報誌が内容、発行回数ともに充実して発行されている。 ・学校ホームページに適宜情報発信するよう努めているが、更新が遅れがちである。 ・生徒の校外活動やボランティア活動への参加を促している。意識の高い生徒も多く、積極的に地域の要請に答えようとしている。	・生徒が様々なボランティア活動に積極的に参加し、地域から期待と信頼を得ている。 ・生徒の進路に繋がる校外活動や教科外活動に対し、地域から様々な情報や協力が提供されている。 ・学校ホームページへの情報発信が細やかに、タイムリーに行われている。	・広報プロジェクトによりPTAとの連携を深め、学校ホームページや連絡文書を細やかに発信し、且つ確実に伝わるようにする。 ・生徒の校外における体験的な活動を積極的に進め、地域の教育力の支援も受けていく。	・学校行事や生徒指導に対するPTAの協力が積極的になされている。 ・学校行事や講演会を積極的に外部に案内し、来校者が多くあった。 ・地域の活動やボランティアへの生徒の参加が活発で、地域からの期待が高い。	B	・生徒の様々な活動内容を、より一層地域社会へ発信し、学校理解を促進するとともに、生徒の活動の意欲や自信を高める。 ・地域からの指摘を真摯に受け止め、積極的に改善に取り組む姿勢を地域に示す。
	(地域人材の活用) ・社会人講師等による多様な講演や研修が行われている。 ・学校評議員や地域の有識者との意見交換が定期的に行われている。	・社会人講師や地域の有識者による講演、研修、意見交換の場を多く持ち、様々な提言を学校運営に生かしている。	・PTA総会、その他PTA諸活動への保護者の参加率が高く、学校と保護者との連携が深まっている。PTA総会への保護者の参加数が昨年度比1. 5倍。 ・学校生活に対し保護者や地域の方々の関心が高く、生徒にとって見守られ感がある。	・生徒の現状や学校課題に即した講演会や研修を、外部有識者と連携しながら充実させる。 ・学校評議員や地域人材との連携をさらに深める。	・社会人講師や地域の有識者による研修、意見交換の場を多く持ち、様々な提言を活かしている。 ・生物活用の授業において新たに地域の農業家の支援を仰ぎ、有益なアドバイスを得ることができた。	B	・学校評議員や地域有識者、様々な外部講師などを積極的に学校へ招き、学校の開放感、地域との一体感を高めるとともに、生徒自身の見守られ感も高める。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]